特色を活かした町づくり

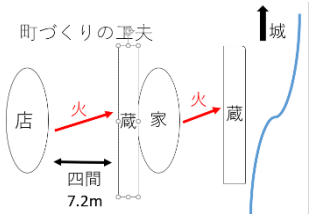
エンジニア科2年　松下　昌太郎

目的　人が集まる伝統的な町から、特色を活かした地域おこしを考える。

事例1　郡上八幡

特徴は町に広がる水路です。防火のために4年かけてつくりました。現在でも生活用水としても利用されており、住民の方々に重宝されています。昔ながらの日本的な生活を感じます。

事例2　名古屋市四間道



特徴は広い道幅と、そこに並ぶ漆喰の土蔵です。土蔵は火に強く、火事の時に近くの名古屋城に火が届かないつくりになっています。現在はカフェやレストランが入り、名古屋城と共に観光客に人気です。

事例3　高岡の古い町並み

特徴は重厚感ある家が並ぶ町並みです。火に強い土壁と黒漆喰でできています。明治時代の鋳物商人がつくった家で、西洋風の金属の装飾が所々見られます。開口部も土壁の扉で塞ぐことができ、隣家の火を防ぎます。一軒一軒に工夫が見られます。

3つの町の共通点

①残そうとする意思が強い

それぞれの町が保存地区になっており、住民の方々も伝統を守ろうとしています。郡上八幡では水路の掃除、高岡の町には鋳物の作品が並んでいました。四間道では古くなった建物をクラウドファンディングで改修しています。住む人意思で現在でも残っているのだと思いました。

鋳物

郡上八幡の水路

②情報の公開

町の中に看板が建っており町の文化や特徴が紹介されていました。情報があるから歩く事が楽しくなり、寄ってみたいと感じる人がいると思いました。

③立地

四間道は駅に近く、レストランやカフェの利用に向いています。逆に高岡の町並みは、駅から遠く、大きな駐車場もありません。だから徒歩圏内に鋳物体験ができる施設を建て、町は資料館として使っています。町の特色と環境の両方考える必要があると
思いました。

四間道の蔵のレストラン

鋳物体験ができる施設（能作）